



図 2.4.1.4 確認されたクマタカ（左：巣内雛と成鳥、右：3月に確認された幼鳥）

【平成 25 年の繁殖状況】

①青川つがい

環境影響評価現況調査時の平成 23 年には繁殖に成功していることから、その翌々年にあたる平成 25 年は繁殖する可能性が高いと考えられる。

平成 25 年 2 月時には営巣地周辺で成鳥の活発な動きが確認された。同年 3 月にもつがいで行動していると推測される出現状況が確認された。しばしば鳴き声も聞かれて、繁殖している可能性を伺わせるが、直接的に繁殖を示唆する行動は確認されていない。今後も調査を継続するとともに、巣内雛が成長する 5～6 月頃に営巣地踏査を行うことを検討する。

②大貝戸つがい

環境影響評価現況調査時の平成 24 年には繁殖に成功していることから、その翌年にあたる平成 25 年には繁殖しない可能性が高いと考えられる。

平成 25 年 2、3 月時点では、営巣地周辺で成鳥も出現しているが、前年生まれの幼鳥も出現しており、本年は繁殖を行わない可能性が高いと考えられる。

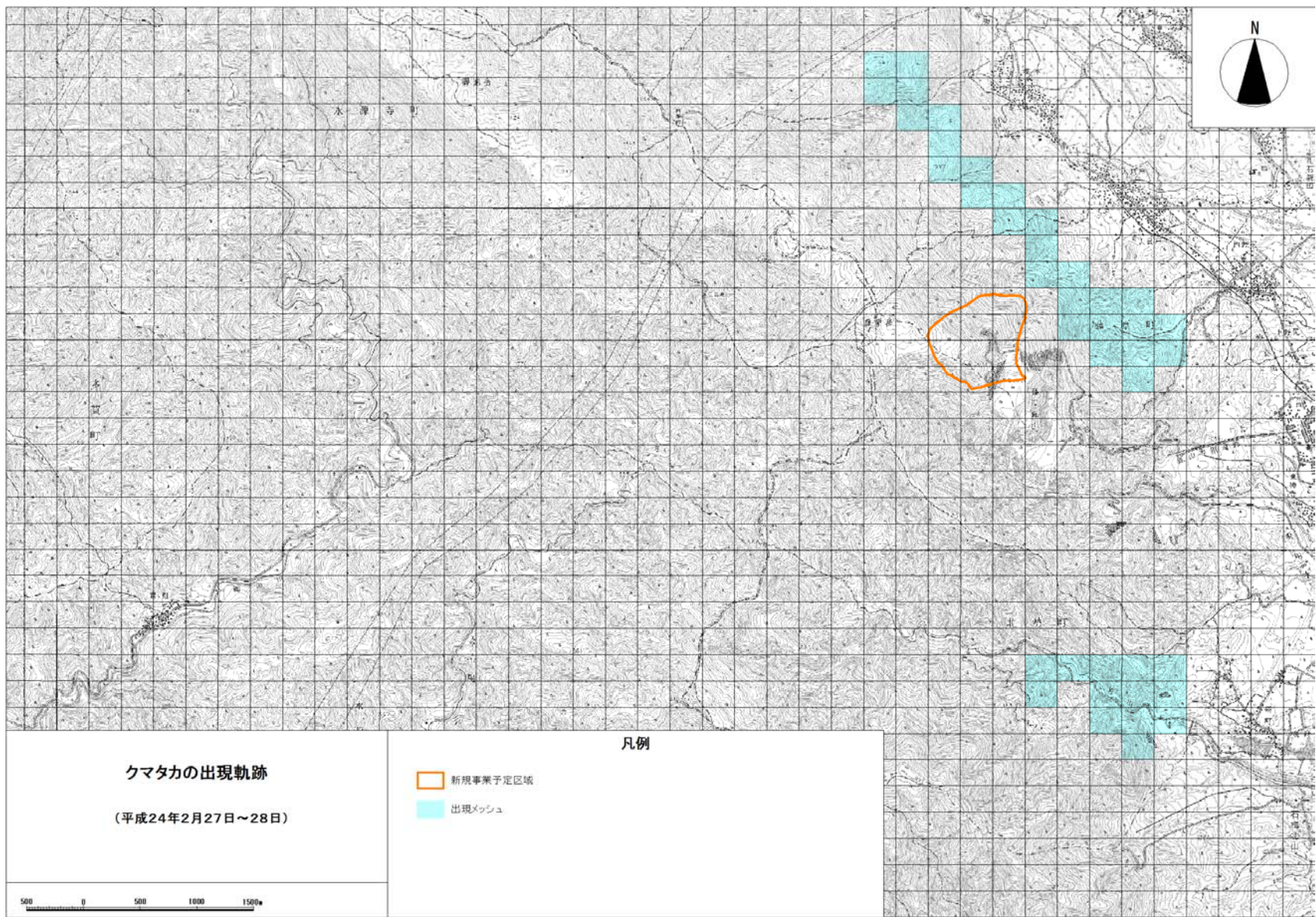


図 2.4.1.5(1) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 2 月)

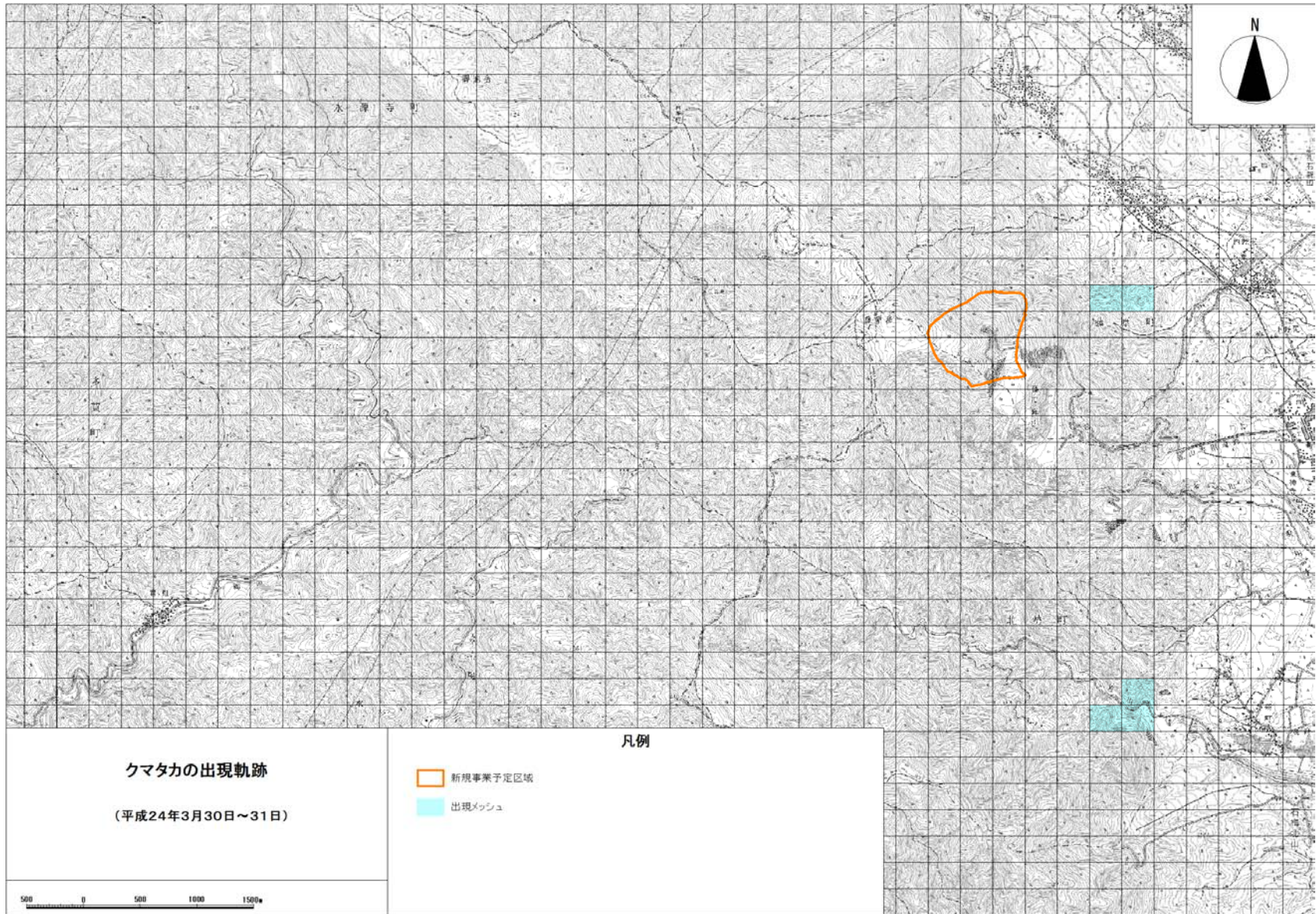


図 2.4.1.5(2) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 3 月)

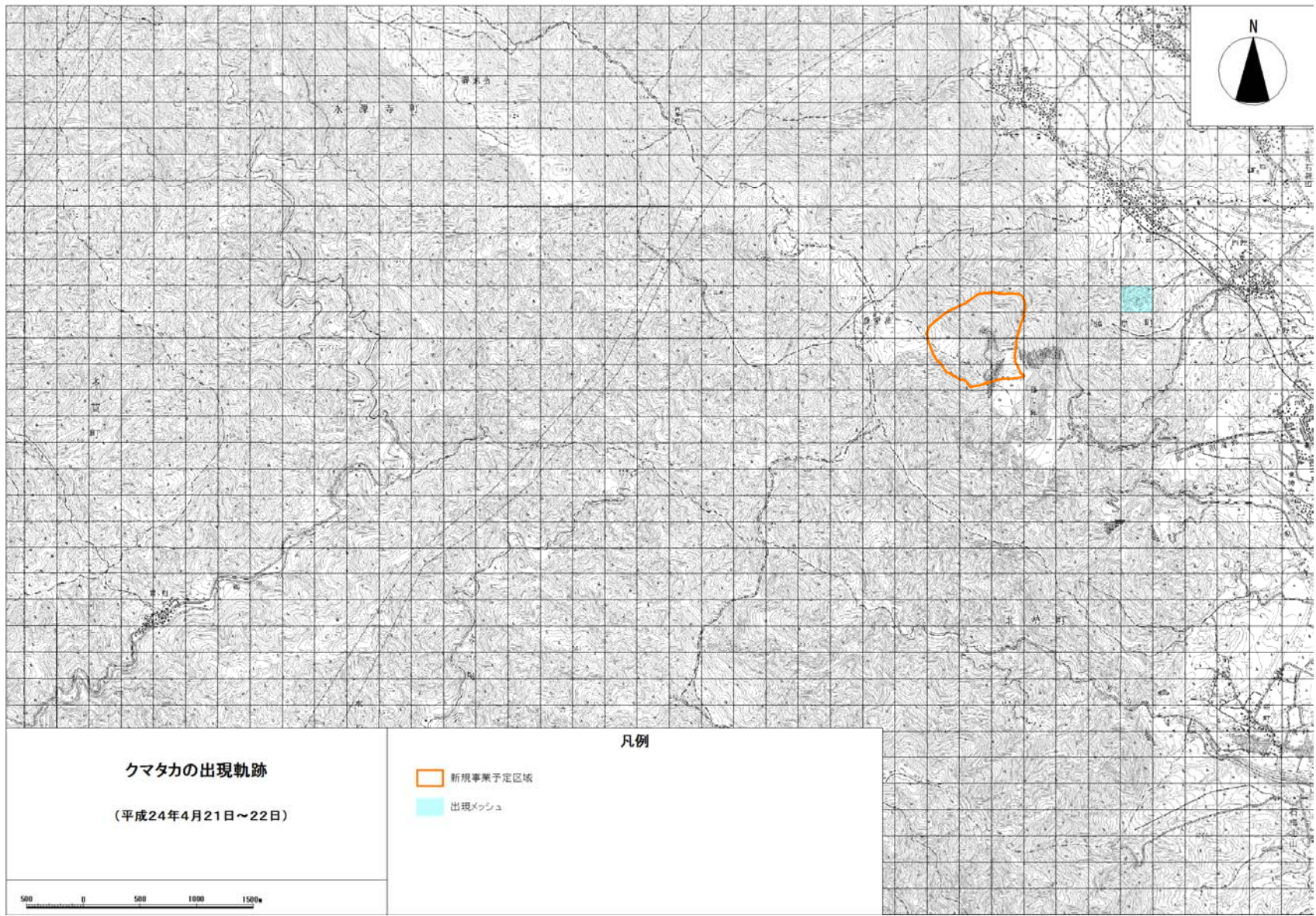


図 2.4.1.5(3) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 4 月)

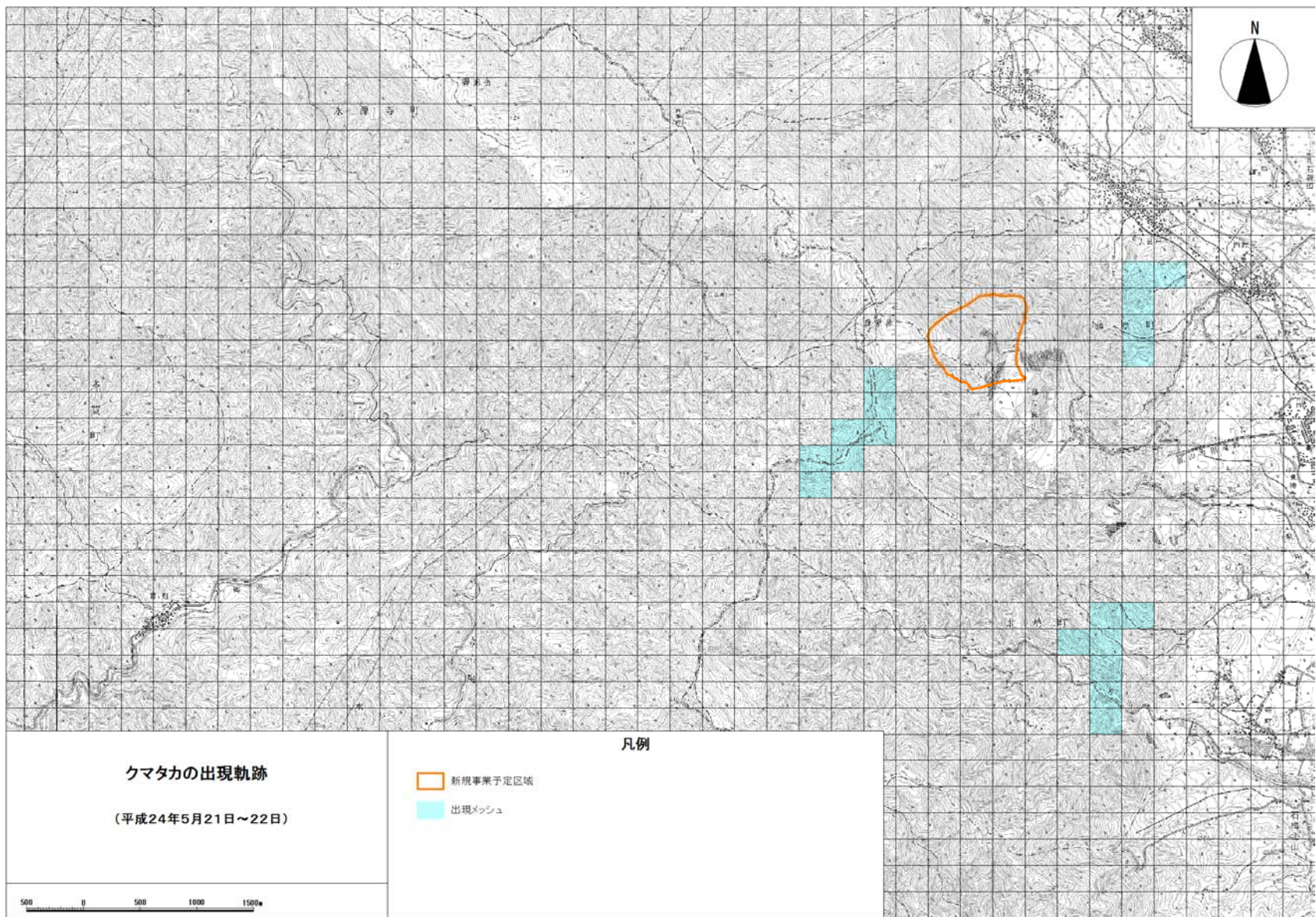


図 2.4.1.5(4) クマタカの出現軌跡図（平成 24 年 5 月）

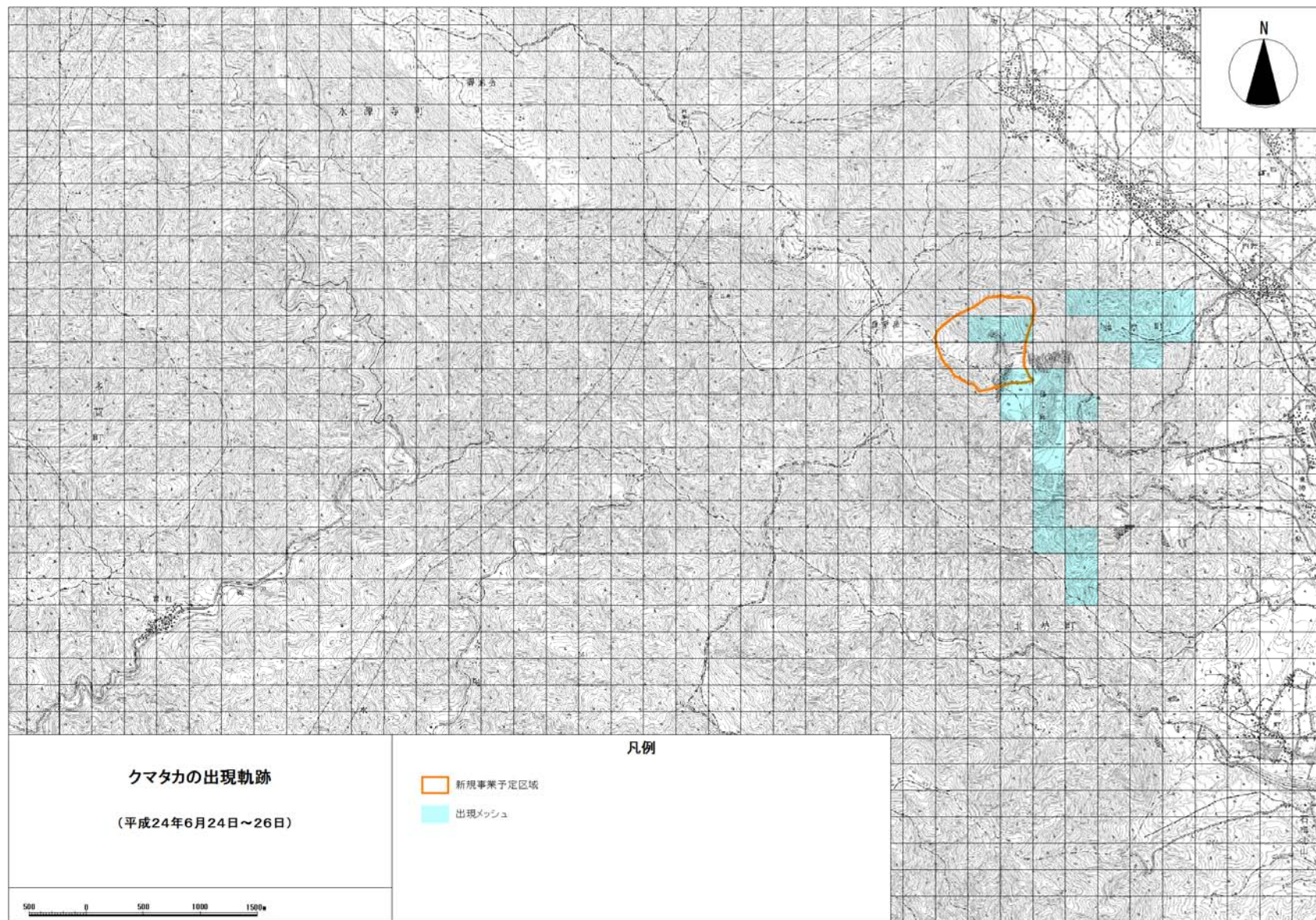


図 2.4.1.5(5) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 6 月)

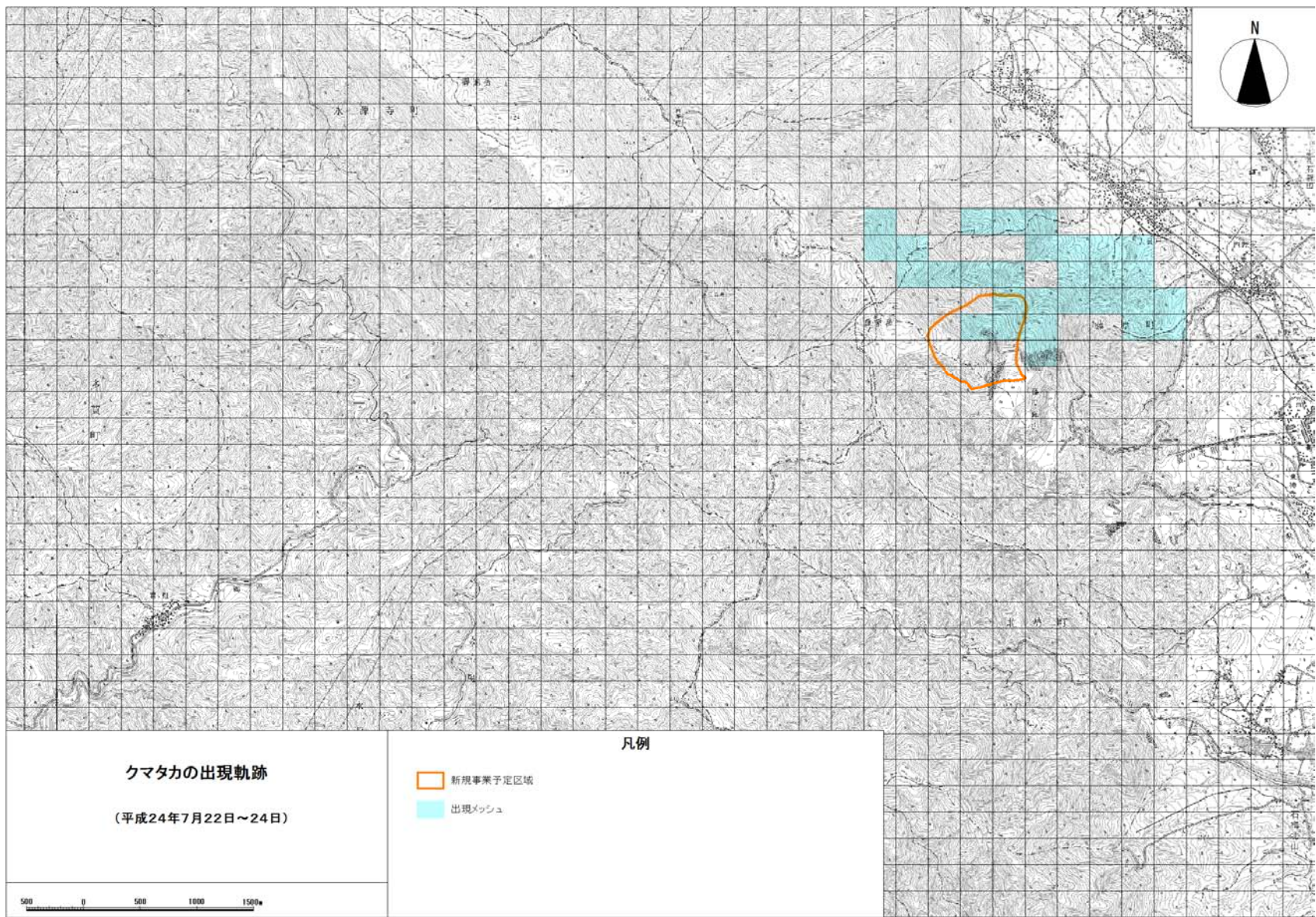


図 2.4.1.5(6) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 7 月)

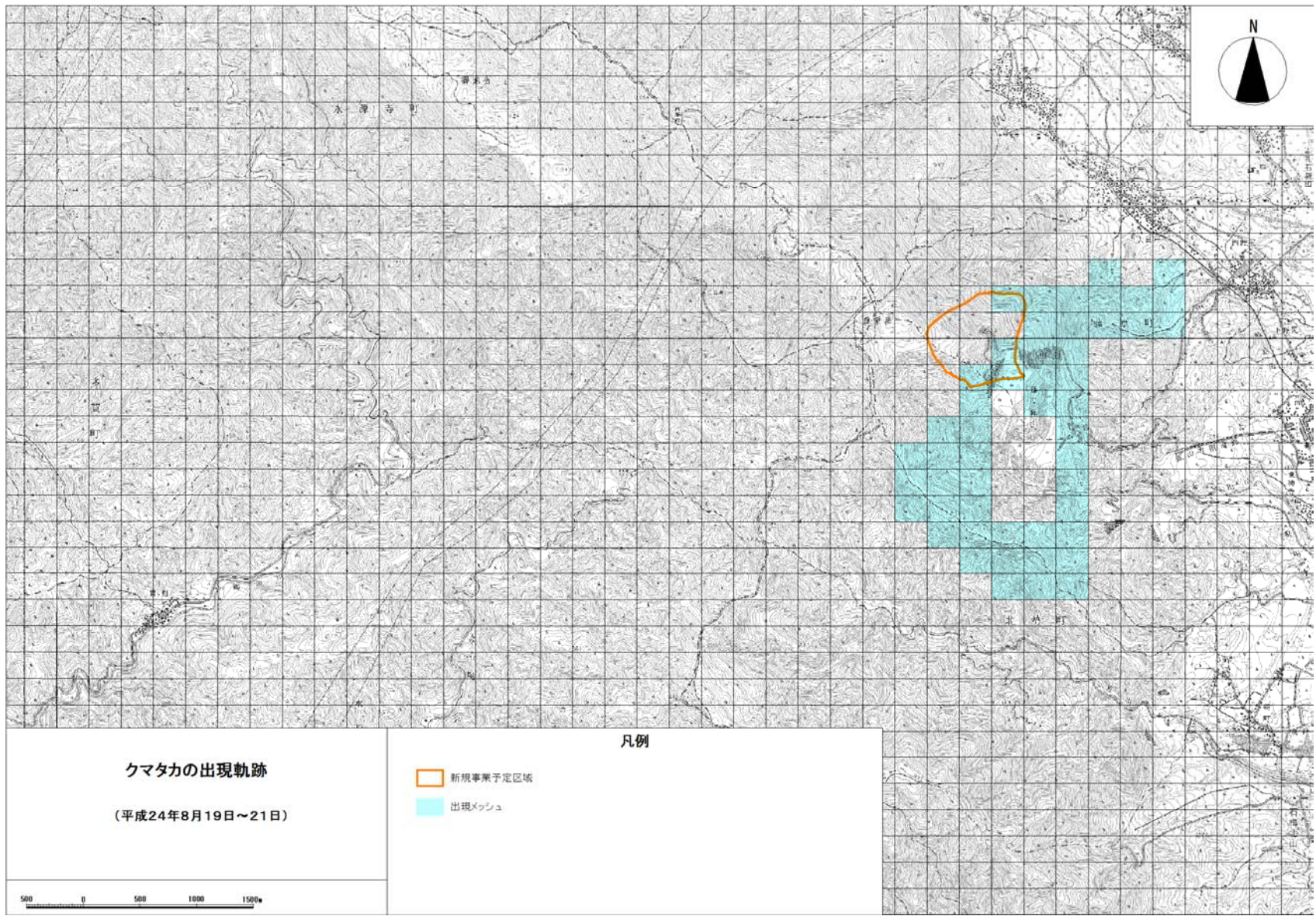


図 2.4.1.5(7) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 8 月)

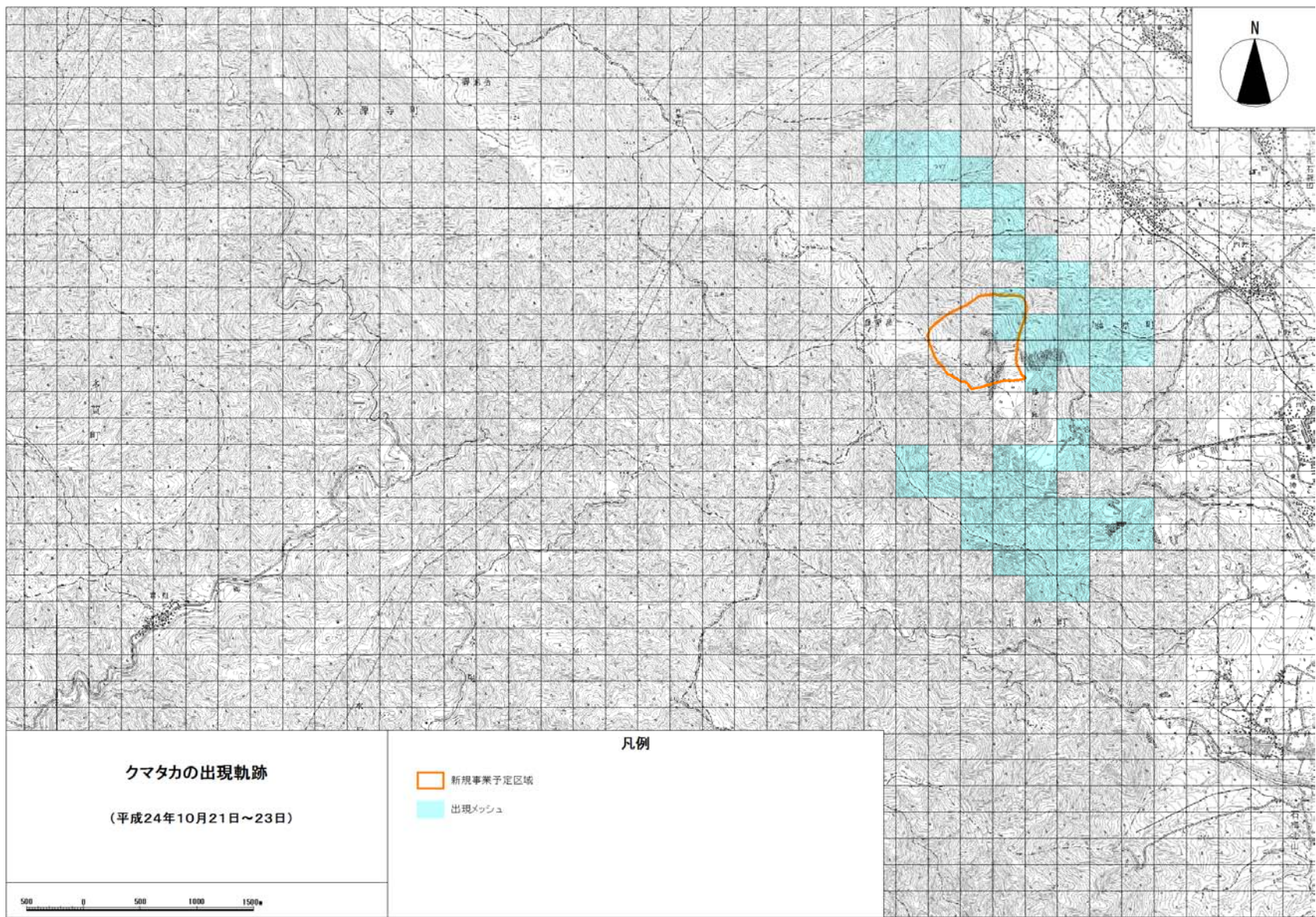


図 2.4.1.5(8) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 10 月)

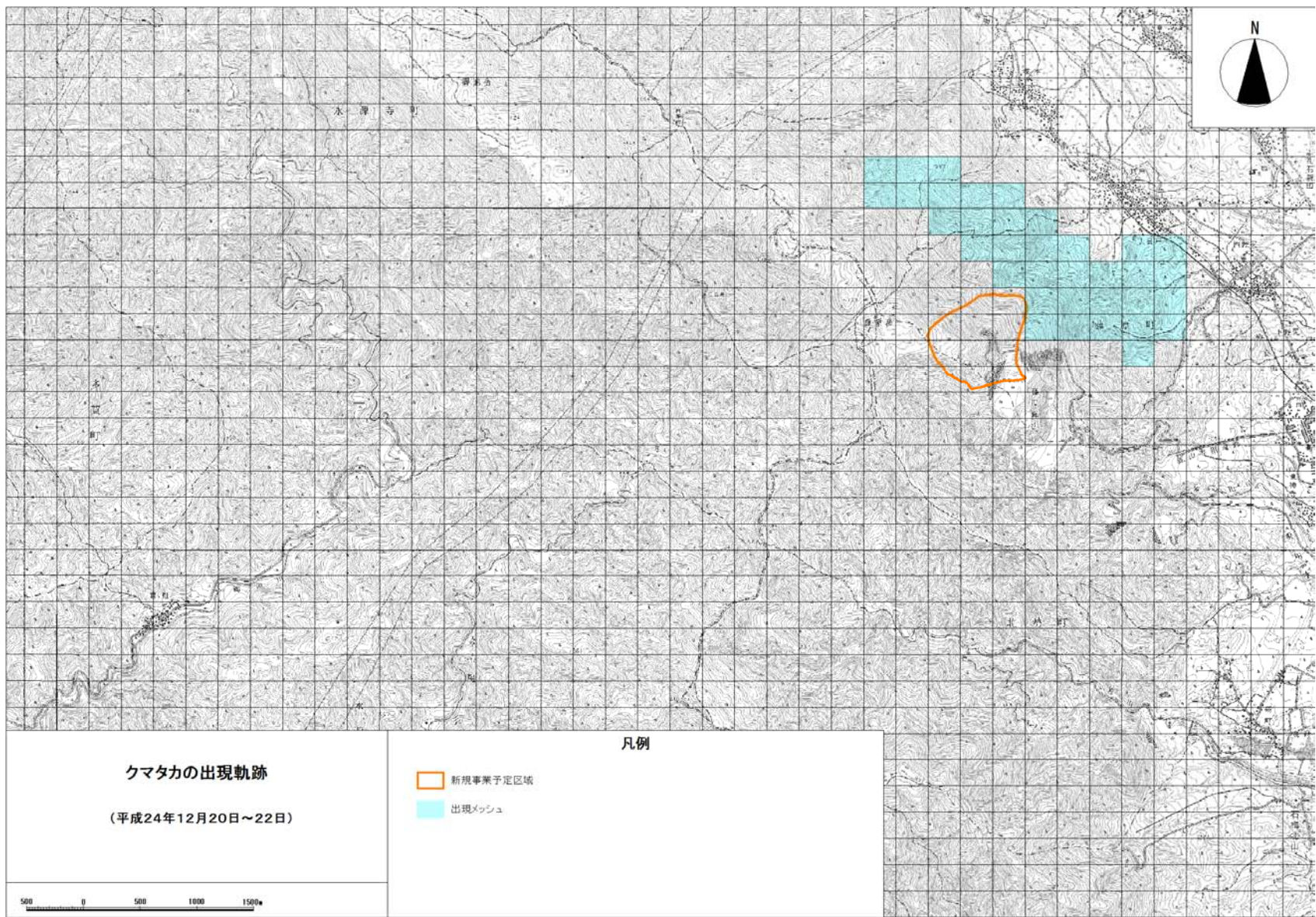


図 2.4.1.5(9) クマタカの出現軌跡図 (平成 24 年 12 月)

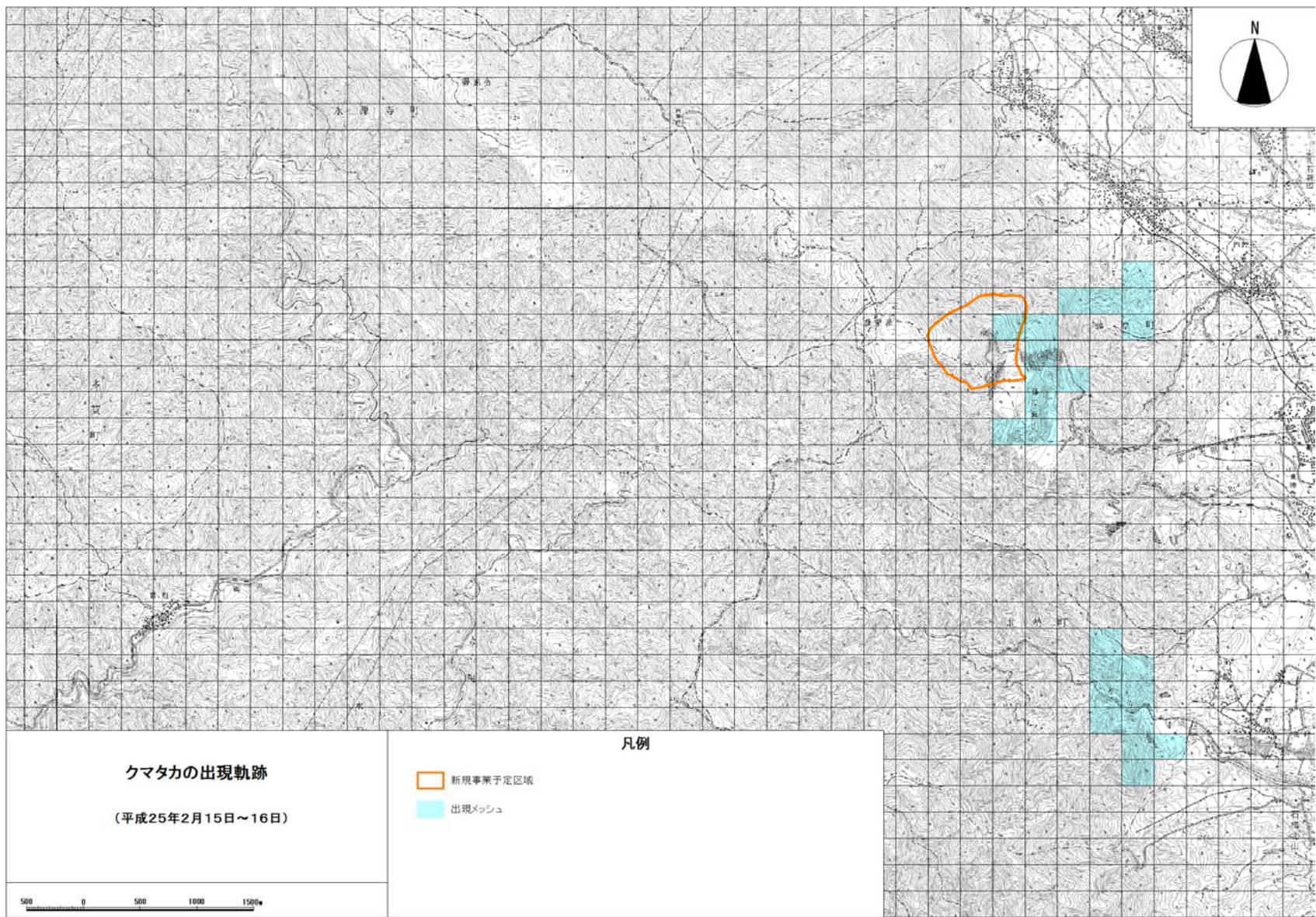


図 2.4.1.5(10) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 2 月)

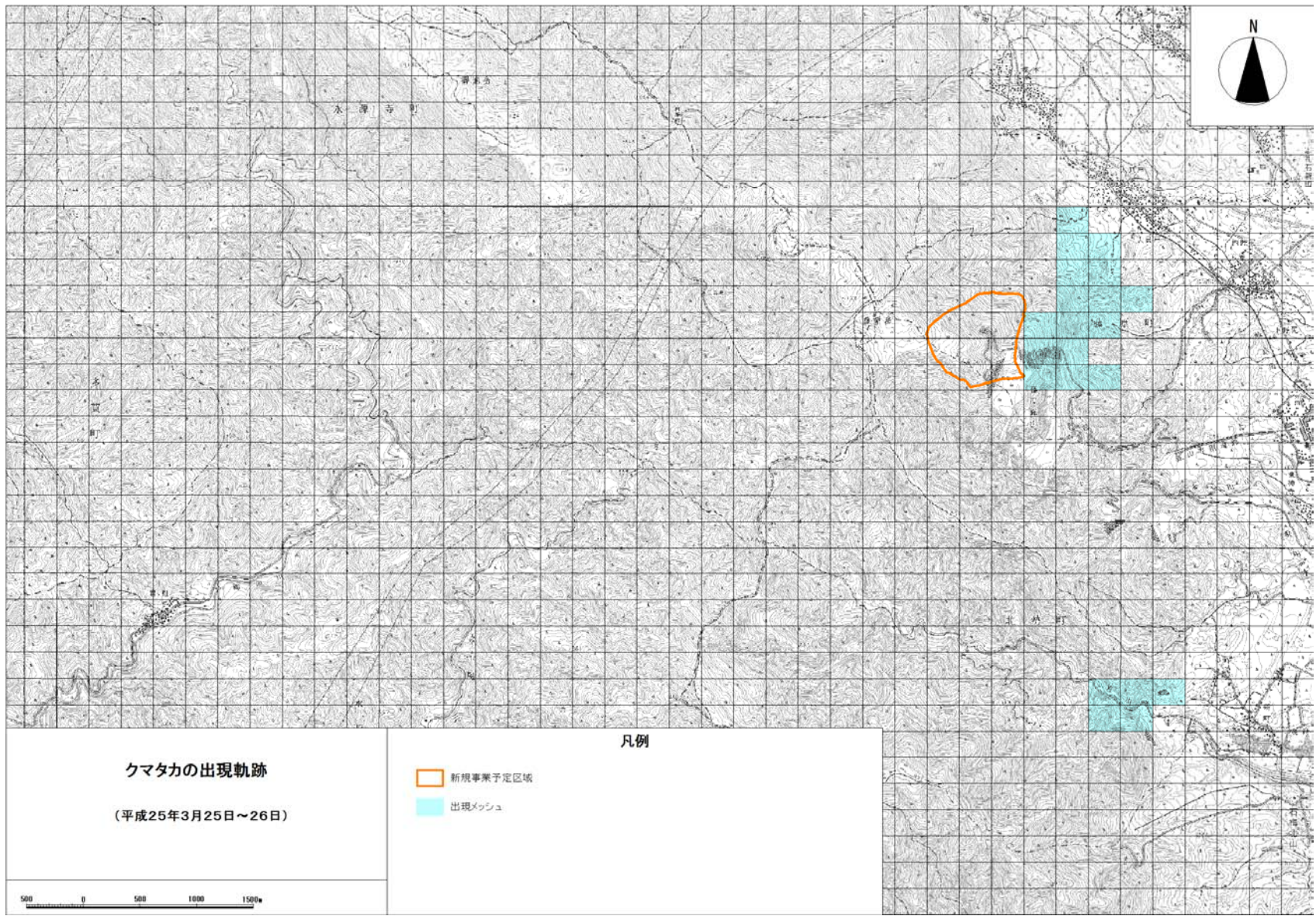


図 2.4.1.5(11) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 3 月)

7) 環境保全措置に係る検討

調査の結果、平成 25 年はイヌワシ、クマタカともに繁殖の可能性を示唆する結果が確認されている。今後も事後調査計画に定めるとおり、当該種へのモニタリングを実施し、必要に応じ、その繁殖活動への影響が低減されるよう保全対策を検討することとする。

8) 有識者への意見聴取

環境影響評価準備書に対する三重県知事意見に記載のある“希少動植物種の保全に係る有識者への意見徴収”について、以下のとおり、本事後調査内容に対する指導を仰いだ。有識者からの意見内容及び意見に対する事業者の対応は、以下に示したとおりである。

件名	藤原鉦山およびその周辺次期原料山開発事業環境影響評価事後調査 (イヌワシ・クマタカの繁殖状況調査に係る意見聴取)
対象者	立教大学 理学部 教授 上田恵介先生
日時	平成 25 年 5 月 8 日、13:00～
場所	立教大学 理学部
【内容】 本年度については、事業着手前の調査とのことであり、報告内容に特に問題はないものと思われる。 今後も繁殖確認調査や繁殖状況調査の実施により、事業の影響を監視していくことは重要である。 事業の影響を考える上で生息地周辺における音の状況や人の出入りについては重要な情報となるため、出来るだけ記録をとるように。 今後も調査にあたっては、調査の目的を明確にし、適切な地点・時期を設定すること。	
【事業者としての対応】 ご指摘のとおり、本事後調査報告書に記載した猛禽類の保護に係る調査を継続してまいります。	

2.4.2 カナマルマイマイ保全調査

カナマルマイマイに対する保全措置は、事後調査計画において工事中及び供用後ともに移植を実施することとしている。同種の移植に対しては、環境影響評価準備書に対する三重県知事意見でも、その不確実性に係る意見が出されている。これらの意見を考慮し、本年度の保全措置については、移植地を造成するための基礎資料を得るために実施した生息環境調査、移植地の造成、改変前移植調査を実施したので報告する。

1) 生息環境調査

(1) 調査目的

本調査は、当該種の生息する自然環境要因を出来る限り把握し、移植地造成のための基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査項目

調査項目は、以下に示したとおりである。

- ・カナマルマイマイ生息環境調査

(3) 調査地点

調査は、準備工事区域を中心に、新規事業予定区域内及びその近傍において実施した。調査を実施したコドラート位置は、後述する調査結果に示したとおりである。

(4) 調査方法

当該種が生息する環境条件を把握するため、当該種の確認及びその生息場所の状況を整理・記録し、移植地造成の際の基礎情報を得た。調査は、発見した個体の基礎情報（殻の高さ・長短径・重さ、写真（上下と横4方向））を得るとともに、下記の項目を出来る限り実施した。

- ①生息地状況：生息場所の植生、斜面傾斜、斜面方向、
- ②日射状況：生息場所の日射状況を把握（植生の被覆度、照度）
- ③簡易土壌分析（現地測定項目）：水分、pH
- ③土壌化学分析（分析室）：生息場所の土壌組成の把握（pH、EC、Ca、CEC、IL、含水率）

調査は、新規事業予定区域内に2m×2m程度のコドラートを43個設置し、実施した。

調査風景は、図2.4.2.1に示したとおりである。

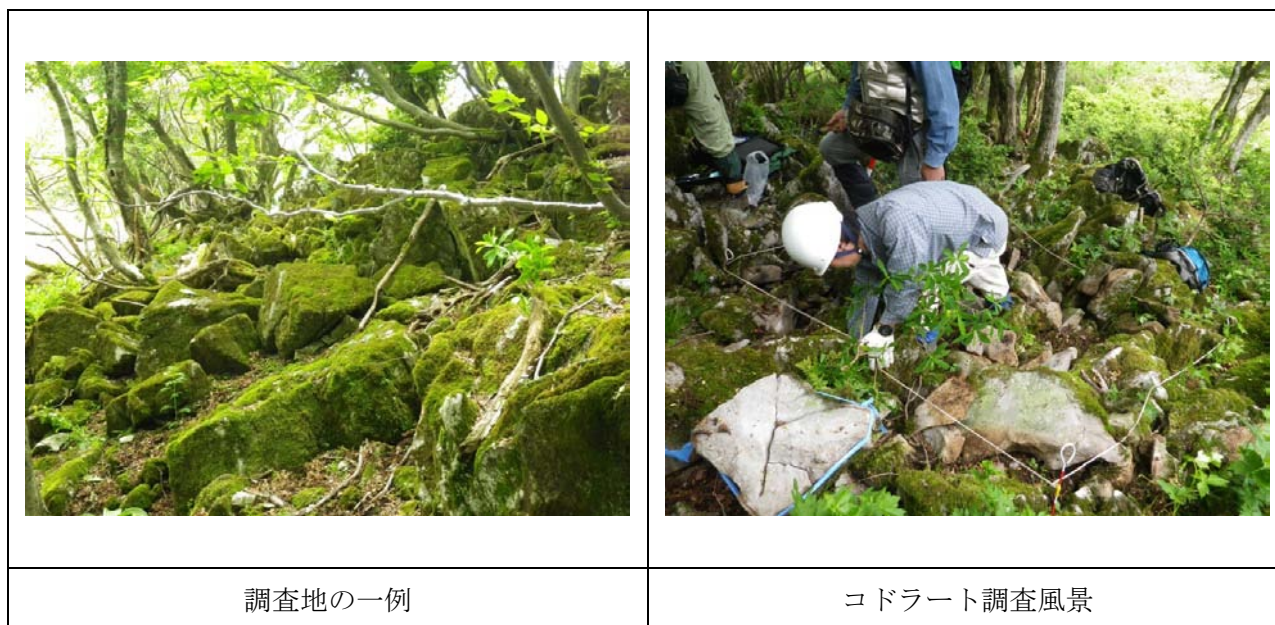


図 2.4.2.1 調査風景

(5) 調査実施日

調査は、平成 24 年 5 月及び 6 月に 4 日間実施した。調査実施日は、表 2.4.2.1 に示したとおりである。

表 2.4.2.1 調査実施日

区分	調査実施日
生息環境調査	平成 24 年 5 月 30 日～6 月 2 日

(6) 調査結果

調査を実施したコドラート及び同種の確認位置は、図 2.4.2.2 に示したとおりである。

各コドラートでの調査項目結果は表 2.4.2.2 に、発見した貝殻を含むカナマルマイマイの計測値は表 2.4.2.3 に示したとおりである。これらのうち生きたカナマルマイマイの計測写真を資料編に掲載した。

全 43 コドラートのうち、5 コドラートで計 6 個体の生きたカナマルマイマイを確認し、15 コドラートで貝殻を計 65 個確認した。

各調査項目とカナマルマイマイの分布との関係について、現地測定（調査）項目と同種との関係は図 2.4.2.3 に、土壌の化学分析結果と同種との関係は図 2.4.2.4 に示したとおりである。

その概要は以下のとおりであった。

水分については、簡易測定及び化学分析ともに明確な選択性は確認されなかった。貝の見つかった土壌の含水率は、約 30～50%の範囲にあった。

pHについては、簡易測定及び化学分析ともに明確な選択性は確認されなかった。

斜面方向については、主に北～東方向のコドラートで貝が確認されているが、調査範囲の地勢を反映したものと考えられ、選択性が現れているのではないと考えられる。

斜面傾斜については、明確な選択性は確認されなかった。

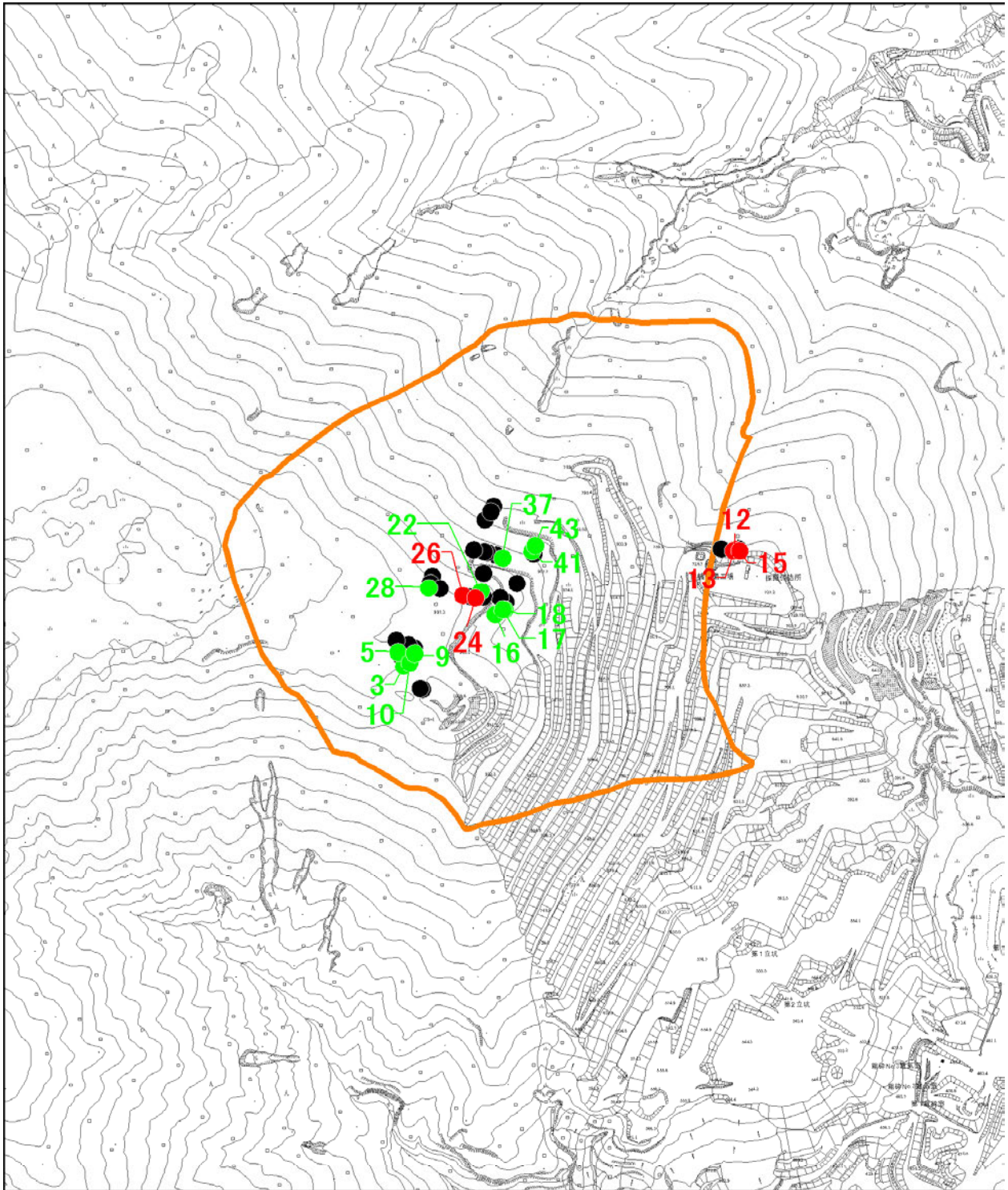
植生については、草地や暗いツゲ林では貝がみられなかった。低木林や落葉樹林には明るさにかかわらず広く確認された。全般的には特定の植生に依存している状況は見られなかった。

Caについては、値が低い方に貝が確認されているが、調査地が石灰岩地域のため、全体に高い含有量にあり、選択性が存在するかどうかは不明である。

塩基置換容量（CEC）については、やや値の低い方に貝が確認される傾向にあり、土壌の保肥性の低い方が選択されているように思われる。

電気伝導度（EC）については、明確な選択性は確認されなかった。

強熱減量（IL）については、明確な選択性は確認されなかった。



- 凡 例
- 生きた貝の見つかったコドラート
 - 貝殻の見つかったコドラート
 - 貝の見つからなかったコドラート (No略)
 - 新規事業予定区域

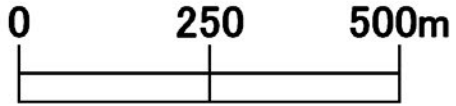


図 2.4.2.2 生息環境コドラート位置図

表 2.4.2.2(1) 各コドラートでの調査項目結果（簡易測定など現地測定項目）

コドラート 番号	貝確認数			斜面			土壌 水分	土壌 pH	植生・被覆度		照度 (参考値)	調査日	調査 時刻	土壌 サンプル
	生	殻	計	方向	方向No	傾斜角				被覆 コード				
12	1		1	ESE	5	39	9.0	5.2	ツゲ・陰	7	1395	2012/05/31	9:30	○
13	1		1	ESE	5	50	11.1	4.5	落広・陰	5	1500	2012/05/31	10:10	×
15	2	1	3	N	0	47	7.6	5.6	落広・明	3	12000	2012/05/31	11:30	○
24	1	23	24	NE	2	27			落広林縁・中	3	1720	2012/06/01	10:45	×
26	1	1	2	NE	2	24			落広・陰	5	543	2012/06/01	12:35	×
3		10	10	E	4	25	13.1	4.2	落広・陰	5	2800	2012/05/30	12:38	×
5		1	1	E	4	12	13.8	4.7	落広・中	4	5800	2012/05/30	13:45	×
9		1	1	ENE	3	32	14.2	4.7	落広・陰	5	750	2012/05/30	15:40	○
10		2	2	ENE	3	39	14.3	4.4	落広・中	4	5260	2012/05/30	16:20	×
16		3	3	N	0	38	14.6	4.6	落広低・明	2	11100	2012/05/31	13:35	×
17		2	2	N	0	37	17.6	5.8	落広低・中	2	8500	2012/05/31	14:06	○
18		2	2	N	0	36	7.7	5.0	落広低・中	2	5600	2012/05/31	14:35	×
22		13	13	NE	2	42			落広・明	3+		2012/06/01	9:25	×
28		2	2	NE	2	38			落広・陰	5		2012/06/01	13:50	×
37		1	1	NNE	1	45	13.9	4.8	落広・陰	5	247	2012/06/02	11:25	○
41		1	1	NNE	1	34			落広疎林・中	4	317	2012/06/02	14:45	○
43		2	2	NNE	1	33			落広林縁・中	3	343	2012/06/02	15:40	○
1			0	E	4	18	11.8	5.5	落広・明	3+		2012/05/30	10:40	○
2			0	NNW	15	31	13.6	5.4	草地・明	1+		2012/05/30	11:18	×
4			0	NNW	15	18	7.9	5.5	草地・明	1	1700	2012/05/30	13:25	○
6			0	E	4	12	0.7	5.8	落広低・明	2	10670	2012/05/30	14:18	○
7			0	E	4	30	13.8	4.3	落広・中	4	3800	2012/05/30	14:50	×
8			0	ENE	3	30	14.4	4.8	落広・陰	5	800	2012/05/30	15:15	×
11			0	ESE	5	39	12.4	5.1	ツゲ・中	6	5000	2012/05/31	9:00	×
14			0	ESE	5	45			草地・明	1	3200	2012/05/31	11:05	×
19			0	N	0	38			落広低・明	2	15200	2012/05/31	14:59	×
20			0	N	0	27	13.7	4.9	落広・明	3	1500	2012/05/31	15:25	○
21			0	NE	2				落広・明	3	10500	2012/05/31	16:00	×
23			0	NE	2	30	10.1	4.7	落広・陰	5	287	2012/06/01	10:15	○
25			0	NE	2	27	14.2	4.8	落広・陰	5	253	2012/06/01	11:40	○
27			0	NE	2	40			落広・陰	5	258	2012/06/01	13:15	○
29			0	NE	2	39	13.0	4.8	落広・陰	5	235	2012/06/01	14:25	○
30			0	NE	2	35	13.9	4.8	落広・明	3	1560	2012/06/01	14:55	○
31			0	NNE	1	40	12.2	4.9	落広林縁・陰	4	770	2012/06/01	15:30	×
32			0	NNE	1	23			落広・中	4	1439	2012/06/01	16:10	×
33			0	NNE	1	40			落広・陰	5	468	2012/06/02	9:15	×
34			0	NNE	1	37	13.2	5.4	草地・明	1	630	2012/06/02	9:50	○
35			0	NNE	1	35			落広・中	4	987	2012/06/02	10:20	○
36			0	NNE	1	33	10.9	5.1	落広・中	4	533	2012/06/02	10:50	○
38			0	NNE	1	44	13.6	5.3	落広・中	4	636	2012/06/02	12:45	○
39			0	NNE	1	44	11.6	5.1	落広・中	4		2012/06/02	13:20	×
40			0	NNE	1	40	17.6	5.2	落広・明	3	1539	2012/06/02	13:55	×
42			0	NNE	1	35			落広・陰	5	204	2012/06/02	15:15	×

※パターン ■ : 生きた貝の見つかったコドラート、 ■ : 貝殻の見つかったコドラート

表 2.4.2.2(2) 各コドラートでの調査項目結果（分析室での土壌化学分析項目）

コドラート	pH /°C	EC mS/m	含水率 %(Wet)	強熱減量 %	Ca mg/kg	CEC meq/100g
12	6.9	14	37.7	20.0	7600	32
15	7.4	32.3	40.6	18.9	23000	39
9	6.9	28.5	56.1	33.5	27000	57
17	7.4	29.4	43.7	23.9	16000	44
37	7.4	29.4	44.1	32.5	25000	67
41	7.3	22.3	29.3	31.4	27000	46
43	7.2	26.7	49.1	28.8	25000	48
1	7.5	16.1	40.4	16.6	9200	34
4	7.1	32.2	44.9	29.4	17000	52
6	4.6	16.6	46.2	24.2	2300	34
20	6.8	29.8	48.8	33.7	21000	56
23	7.2	33.5	49.9	38.8	26000	76
25	7.4	31.4	53.6	38.5	24000	66
27	7.3	30.6	53.8	31.3	31000	64
29	7.3	27.6	54.2	34.4	22000	63
30	7.2	33.3	56.5	40	25000	61
34	7.5	26.2	38.9	23.8	18000	51
35	7.4	26.4	35.9	20.2	24000	51
36	7.1	19.7	40.3	24.9	21000	57
38	7.4	21.1	30.7	16.4	14000	29

※パターンは上表と同じ

表 2.4.2.3 発見したカナマルマイマイの計測値

コラート 番号	個体 番号	生死	殻幅(長) mm	殻幅(短) mm	殻高 mm	重さ g	備考
3	1	死貝	※22.5	20.0	※10.8	—	殻口部付近が割れている
	2	死貝	23.5	21.5	14.0	—	殻口部が一部欠けている
	3	死貝	※19.3	16.2	※10.0	—	殻口部付近が割れている
	4	死貝	15.8	13.0	※8.6	—	殻口部が一部欠けている
	5	死貝	23.5	21.7	14.3	—	各所が欠けている
	6	死貝	25.0	22.8	※13.2	—	殻口部が一部欠けている
	7	死貝	※13.0	11.0	※6.7	—	各所が割れている
	8	死貝	12.0	9.8	5.8	—	殻口部が一部欠けている
	9	死貝	※12.0	10.0	※7.9	—	殻口部を中心に大幅に割れている
	10	死貝	※21.0	—	※7.5	—	殻の1/3～1/2程度が残るのみ
5	1	死貝	※10.0	—	—	—	破損が著しく、底面の殻が半分程度
9	1	死貝	※16.5	14.0	※7.2	—	殻口部付近が割れている
10	1	死貝	※23.5	20.5	※11.5	—	殻口部付近が割れている
	2	死貝	※12.5	10.5	※6.2	—	各所が割れている
12	1	生貝	12.0	11.2	9.5	0.23	
13	1	生貝	13.0	11.6	7.2	0.32	
15	1	生貝	29.5	28.0	10.5	2.72	
	2	生貝	29.0	27.0	11.8	2.75	
	3	死貝	※21.0	18.0	※9.5	—	各所が割れている
16	1	死貝	※20.0	17.0	※9.8	—	殻口部付近が割れている
	2	死貝	※18.2	15.5	※7.8	—	殻口部付近が割れている
	3	死貝	※16.0	14.0	※7.0	—	殻口部付近が割れている
17	1	死貝	26.5	24.5	13.0	—	殻口部が一部欠けている
	2	死貝	23.0	20.5	11.3	—	殻口部付近が割れている
18	1	死貝	17.0	14.2	7.6	—	殻口部が一部欠けている
	2	死貝	※10.7	※9.0	※5.2	—	各所が割れている
22	1	死貝	25.0	22.7	15.2	—	—
	2	死貝	26.0	※22.0	14.7	—	各所が割れている
	3	死貝	23.5	21.7	※12.0	—	頂部を含め各所が割れている
	4	死貝	20.0	18.8	12.8	—	—
	5	死貝	※24.0	※19.0	※13.0	—	頂部を含め各所が割れている
	6	死貝	21.0	18.3	11.1	—	各所が割れている
	7	死貝	19.9	※16.2	※9.7	—	各所が割れている
	8	死貝	※19.3	17.0	※10.4	—	殻口部付近が割れている
	9	死貝	14.8	12.0	※8.0	—	殻口部付近が割れている
	10	死貝	※16.5	13.5	※9.5	—	殻口部付近が割れている
	11	死貝	12.0	9.3	6.5	—	殻口部が一部欠けている
	12	死貝	※12.5	10.3	※7.0	—	殻口部が一部欠けている
	13	死貝	※9.7	7.8	※5.2	—	殻口部が一部欠けている
24	1	生貝	23.5	21.0	9.5	2.21	
	2	死貝	18.3	15.7	※9.8	—	殻口部が一部欠けている
	3	死貝	※18.5	※15.8	※10.2	—	各所が割れている
	4	死貝	※19.5	※16.2	※8.5	—	頂部を含め各所が割れている
	5	死貝	14.7	12.5	8.1	—	殻口部が一部欠けている
	6	死貝	※14.4	12.0	※6.5	—	頂部を含め各所が割れている
	7	死貝	13.3	11.0	7.5	—	殻口部が一部欠けている
	8	死貝	※14.0	11.8	※7.7	—	殻口部が一部欠けている
	9	死貝	※11.5	10.3	※7.5	—	殻口部付近が割れている
	10	死貝	※10.5	8.2	※5.5	—	殻口部付近が割れている
	11	死貝	※17.5	—	—	—	破損が著しく、底面の殻が一部が残る程度
	12	死貝	※23.0	※20.5	※11.9	—	殻口部を中心に大幅に割れている
	13	死貝	25.0	23.3	13.8	—	殻口部は健在だが、一部が割れている
	14	死貝	20.5	17.5	※11.7	—	殻口部が一部欠けている
	15	死貝	22.7	20.5	※10.1	—	頂部を含め各所が割れている
	16	死貝	22.5	19.5	※10.0	—	殻口部付近が割れている
	17	死貝	24.5	22.8	12.5	—	
	18	死貝	24.7	23.5	14.1	—	
	19	死貝	20.5	17.5	11.4	—	殻口部が一部欠けている
	20	死貝	※18.0	15.5	※9.3	—	殻口部が一部欠けている
	21	死貝	※18.7	16.9	※10.8	—	殻口部が一部欠けている
	22	死貝	21.3	20.0	13.7	—	
	23	死貝	25.0	23.5	15.2	—	
	24	死貝	26.0	23.7	14.8	—	
26	1	生貝	17.0	16.0	8.0	0.74	
	2	死貝	※19.3	16.0	※8.1	—	殻口部付近が割れている
28	1	死貝	※21.0	※17.8	※9.2	—	殻口部付近が割れている
	2	死貝	19.1	16.5	10.5	—	殻口部が一部欠けている
37	1	死貝	25.8	22.3	12.5	—	各所が一部割れている
41	1	死貝	※25.5	※23.5	※11.7	—	殻口部付近が大きく割れている
43	1	死貝	※14.8	※12.0	※7.0	—	殻口部付近が割れている
	2	死貝	※13.5	※12.5	—	—	破損が著しく、底面等一部が残るのみ ※殻破損の影響の可能性のあるもの

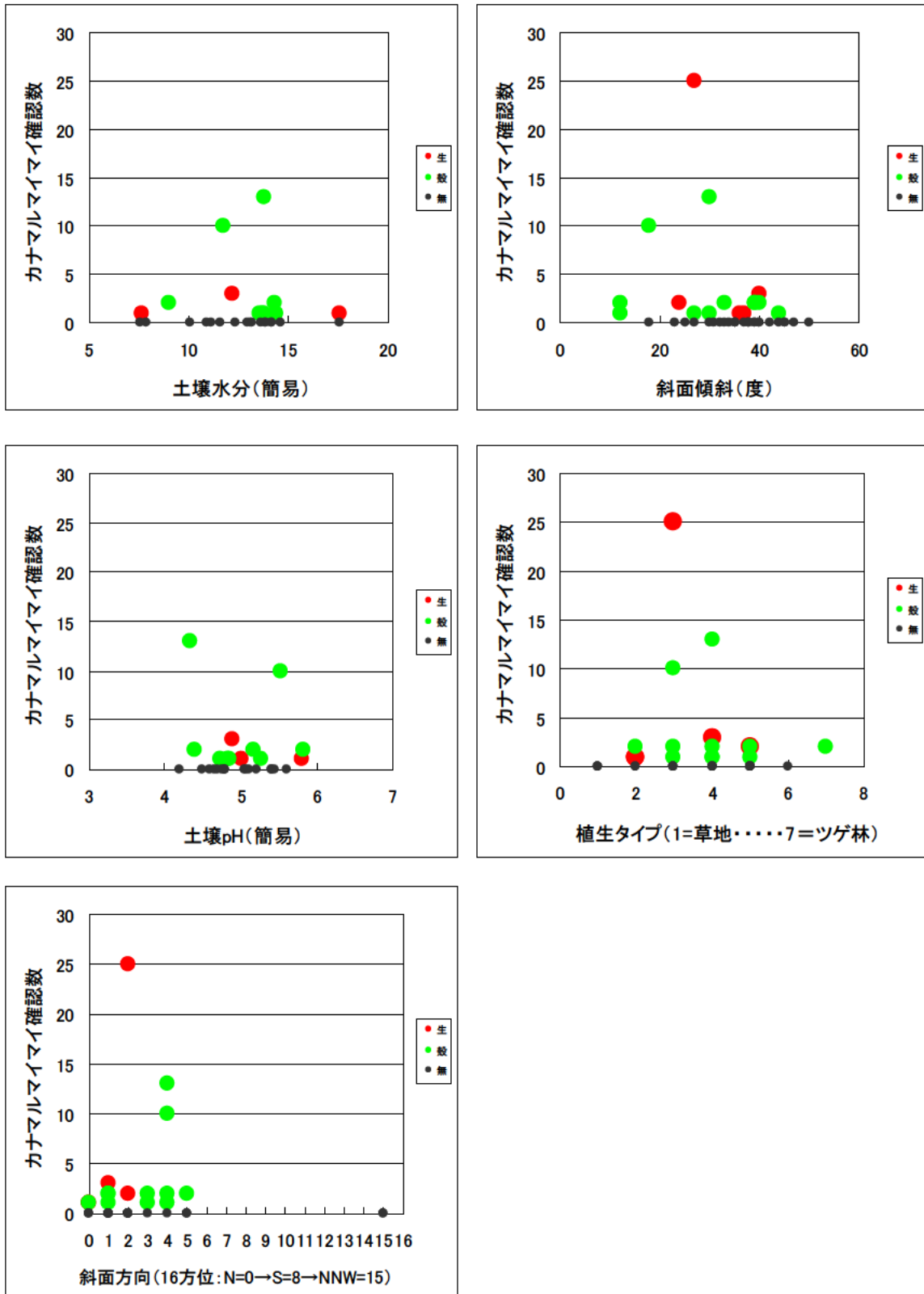


図 2.4.2.3 現地測定項目とカナマルマイ確認数との関係

注 1) 生：生きた貝が確認されたコードラート（確認数には貝殻を含む）、殻：貝殻のみ確認されたコードラート 無：貝の確認されなかったコードラート

注 2) 植生タイプ 1：草地、2：低木林、3：明るい落葉広葉樹林、4：やや明るい落葉広葉樹林、5：暗い落葉広葉樹林、6：やや明るいツゲ林、7：暗いツゲ林

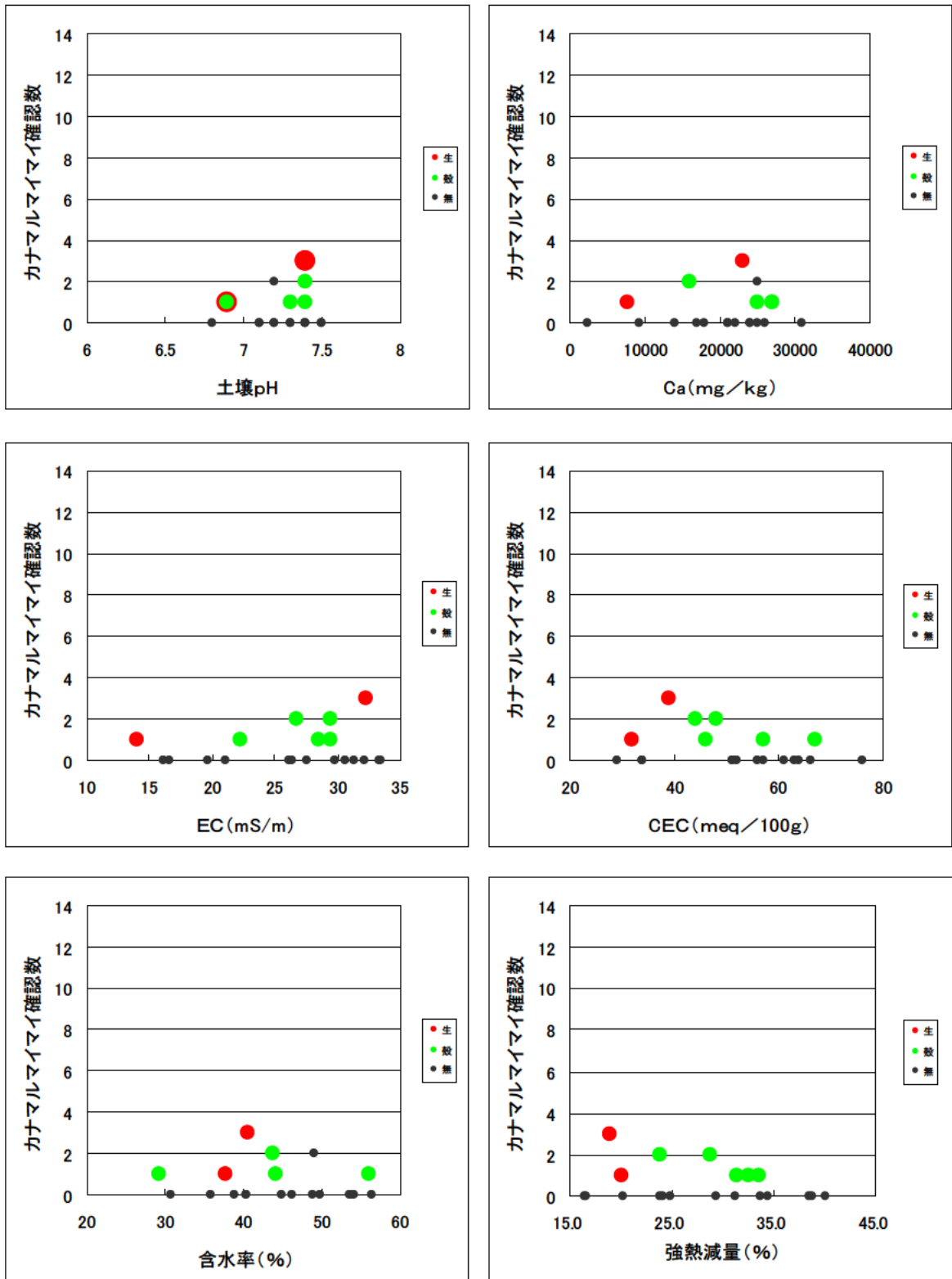


図 2.4.2.4 土壌の化学分析結果とカナマルマイマイ確認数との関係

注 1) 生：生きた貝が確認されたコドラート（確認数には貝殻を含む）、殻：貝殻のみ確認されたコドラート 無：貝の確認されなかったコドラート

2) 移植先環境の検討

調査地の環境条件の範囲内で、明確な選択性を示す項目は確認されなかった。従って、落葉広葉樹林内で、極端な急斜面でなければ、土壤環境を特に調整する必要はないものと考えられる。

カナマルマイマイは、非活動時は石の隙間などに潜んでいることから、礫のすき間が埋まらない、安定的に維持される所を選ぶことが必要であると考えられる。






	
Q12	Q13
	
Q15	Q24
	
Q26	

図 2.4.2.5 生きた貝の見つかったコドラート

3) 移植地造成

調査結果をもとに移植候補地の造成イメージを、図 2.4.2.6 に示したとおり立案した。イメージに基づき、移植地を、図 2.4.2.7 のとおり造成した（造成地の位置は、後述する改変前移植調査の項で示す）。

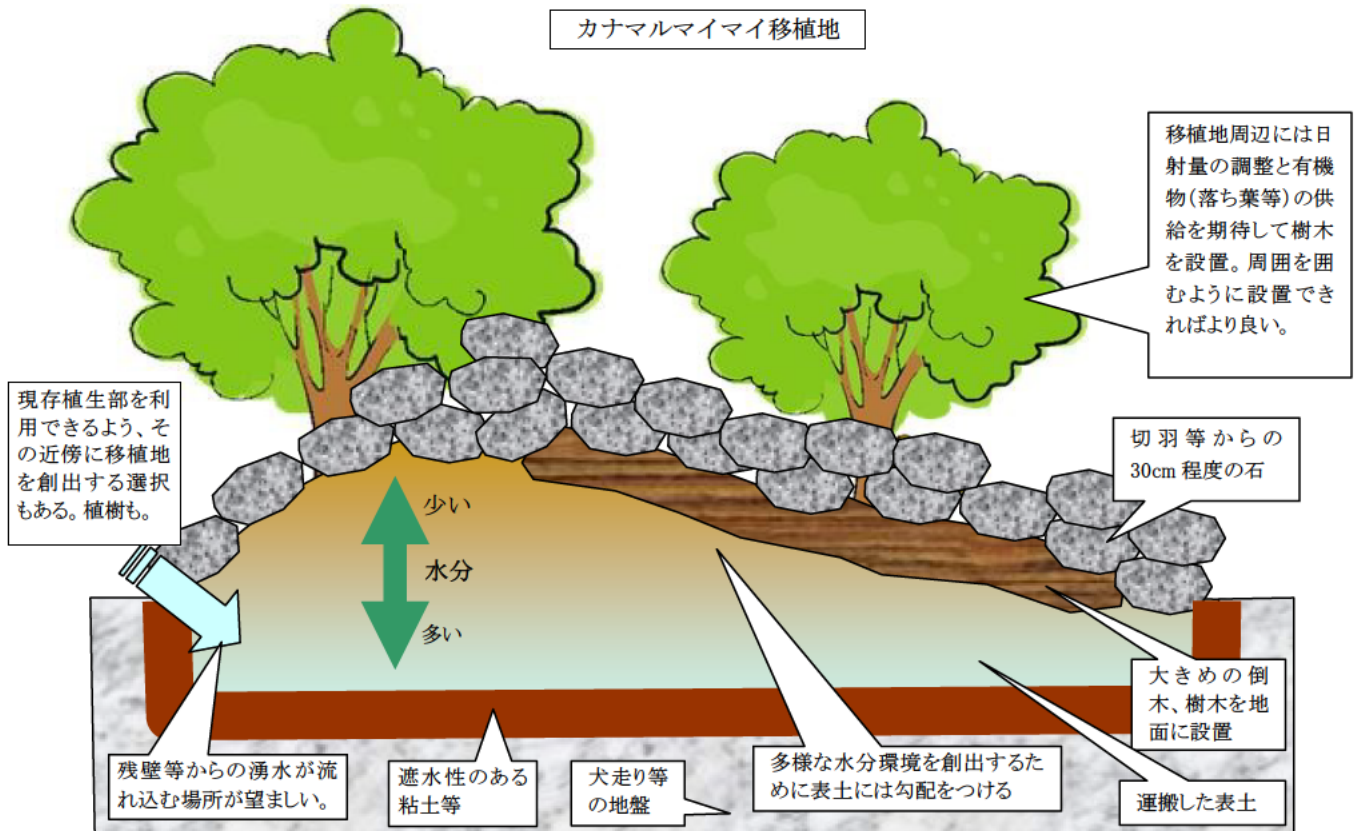


図 2.4.2.6 移植地造成のイメージ (案)

	
<p>1. 移植地の地盤掘削 (GL より約 70cm)</p>	<p>2. ブルーシート設置</p>
	
<p>(遮水性材料の粘土)</p>	<p>(有機物供給源－伐採木等)</p>
	
<p>3. 粘土設置</p>	<p>4. 土壌設置</p>

図 2. 4. 2. 7(1) 移植地造成作業の様子

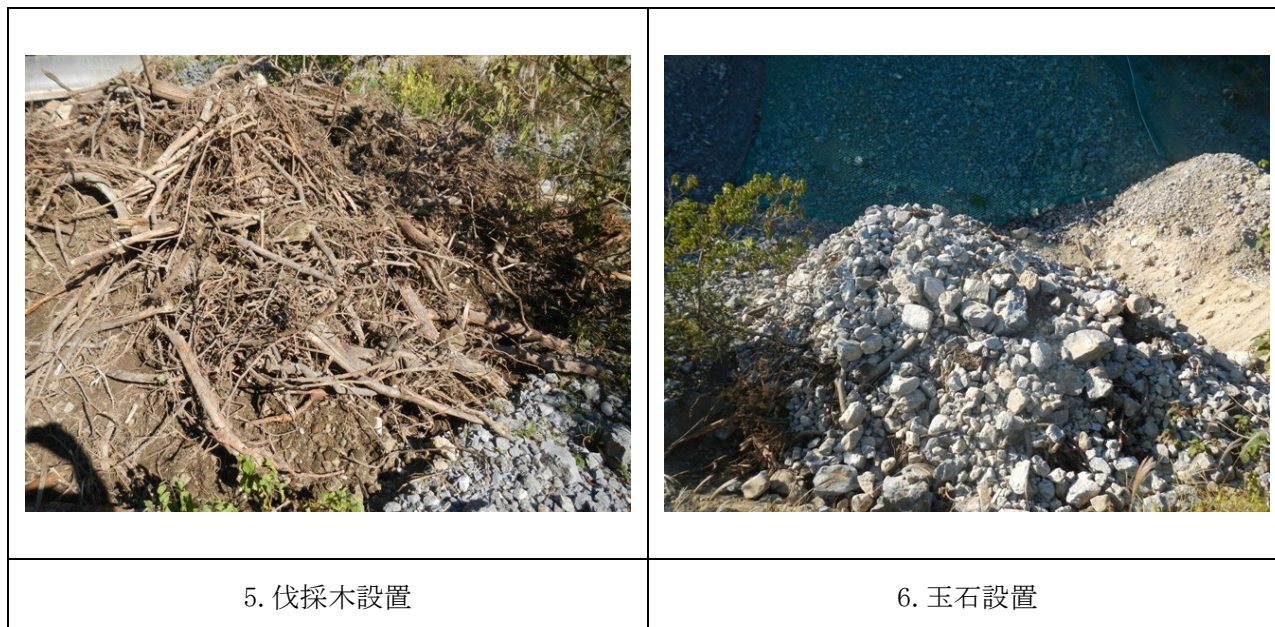


図 2.4.2.7(2) 移植地造成作業の様子

4) 改変前移植調査

(1) 調査目的

改変前に改変区域内（準備工事区域を中心に）の個体を探索し、整備した移植地への移植を目的に調査を実施した。

(2) 調査地点

調査は、準備工事区域を中心に、新規事業予定区域内及びその近傍において実施した。改変前移植調査区域及び造成した移植地の位置は、図 2.4.2.8 に示したとおりである。

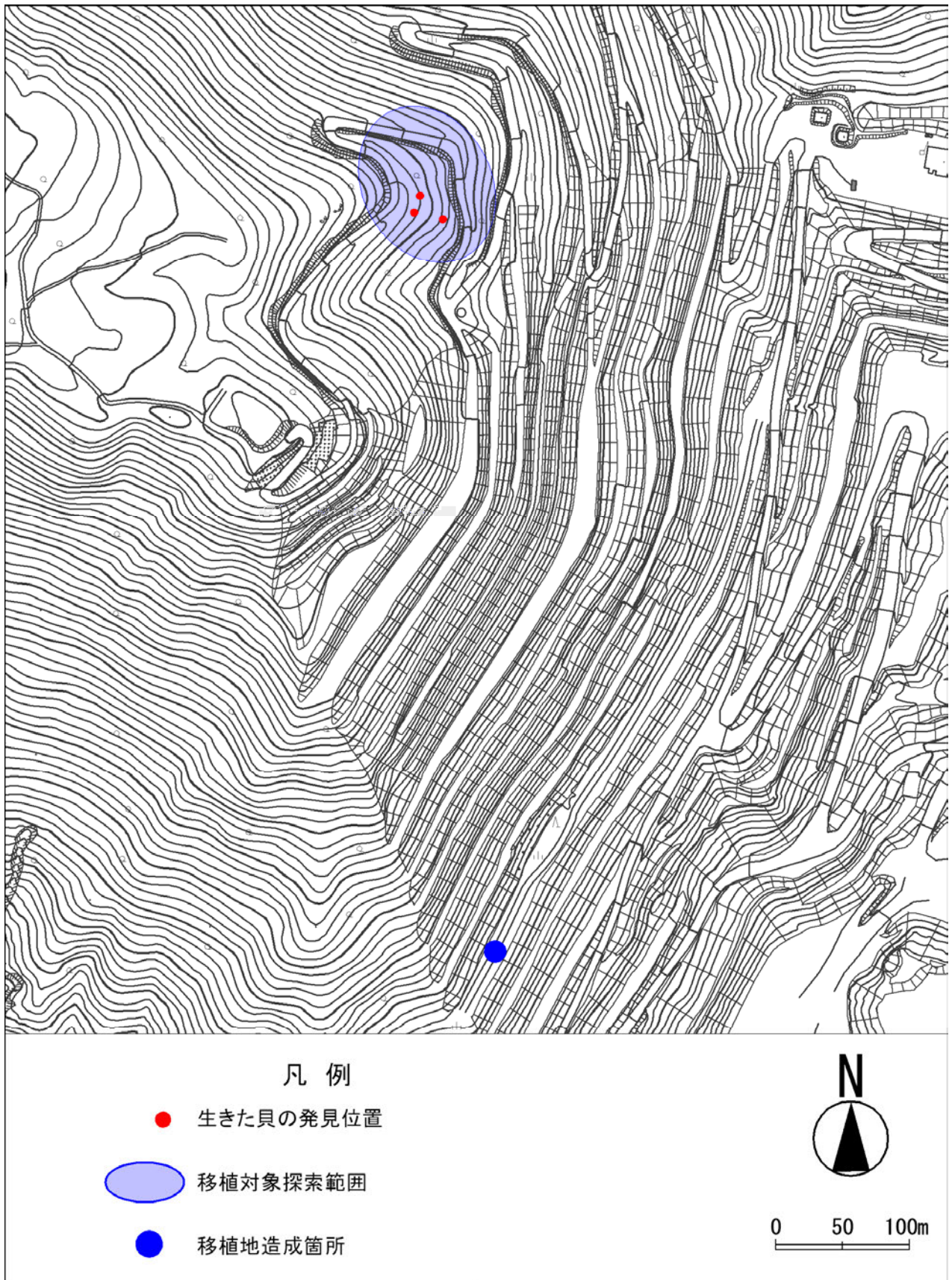


図 2.4.2.8 準備工時変更区域を探索範囲としたカナマルマイマイの確認位置と移植地造成箇所

(3) 調査実施日

調査は、平成 24 年 10 月 26 日より 10 月 27 日の 2 日間実施した。

(4) 調査結果

調査の結果、調査区域内より 3 個体の生きたカナマルマイマイを捕獲した。捕獲した個体の基礎情報は、表 2.4.2.4 に示したとおりである。

表 2.4.2.4 捕獲したカナマルマイマイの基礎情報

個体 番号	殻幅(長) mm	殻幅(短) mm	殻高 mm	重さ g	備考
a	26.8	24.0	10.8	2.30	
b	28.0	25.2	11.9	2.72	
c	24.6	22.0	10.0	1.90	

移植については移植地の造成完了から日が浅く、カナマルマイマイの餌となりうる付着藻類などが十分に生育しておらず、同種の生息には適さない環境であることが予想された。このため、捕獲個体については持ち帰り、図 2.4.2.9 に示したような水槽により飼育し、移植地にコケ類の生育が確認されるなど生息環境が整ったと判断された段階で、移植を実施することとした。



図 2.4.2.9 飼育状況写真

※個体は日中フタの裏で休息することが多い。白いものは固着時のカナマルマイマイの分泌物である。餌として与えている野菜には本種が嚙った穴が空いている。ケースの底の石は、生息箇所付近にあった苔の生えた石灰石。容器は、飼育個体数(3 個体)に合わせて小型のものを使用している。

5) 環境保全措置に係る検討

生息環境調査等の実施により、これまで極めて生態情報の少ない本種にとって、少ないながらもその知見を得ることが出来たと考えられる。今後も事後調査計画に定めるとおり、当該種への調査・移植を実施し、影響の低減に努めることとする。

6) 関係行政機関への聞き取り

環境影響評価準備書に対する三重県知事意見への見解でも示したように“カナマルマイマイの保全”について、以下のとおり、関係行政機関への意見徴収を実施した。意見の内容は、以下に示したとおりである。

件名	藤原鉦山およびその周辺次期原料山開発事業環境影響評価事後調査 (カナマルマイマイの事後調査内容に係る打ち合わせ)
対象者	三重県 みどり共生推進課
日時	平成 25 年 2 月 13 日、13:00～
場所	三重県庁舎 6F
【内容】 聞き取りにあたっては、生息環境調査及び移植造成に関する概要をまず説明した。聞き取りの結果、以下の 3 点について、指摘を頂いた。 ①事業開始時には、事前に出来る限りの保全（移植）調査の実施に努めて頂きたい。なお、移植については継続的に個体（群）が維持されるよう環境の整備に努めて頂きたい。 ②生息環境調査の内容については、調査地点間で実施した調査項目に差があるようであるが、出来る限り統一した内容で実施した方が、精度の高い調査になると考えられる。 ③本事業はその性質上、生息域内保全が困難な業種であるが、事業者として生息域内保全に近い保全対策をまずは検討し、困難であれば、生息域外保全を実施して欲しい。	
【事業者としての対応】 生息域内保全については、事業の性質上、困難であると考えます。本種の保全につきましては、環境影響評価準備書に対する三重県知事意見への見解にも記載しましたとおり、試験的調査を継続しながら、移植等による保全措置を実施していきたいと考えます。なお、ご指摘頂きました生息環境調査時における調査精度向上の点につきましては、平成 25 年度以降の調査において反映できるよう努めてまいります。	

